

学校改革プロジェクト委員会（研究推進）通信

平成29年11月20日

11月1日（水曜日）に郡上市教育研究会（郡上市内の小・中学校の教科ごとの研究会）が実施され、本校から3名の先生が参加しました。どの教科部会でも、高等学校の先生が研究会に参加していただけることが嬉しいと言っていました。11月22日（水曜日）に実施される第3回の教科部会にも2名参加します。来年度も、このような案内をいただけるとと思いますので、若手教員の皆さん、ぜひ1度は参加してみてください。

郡上市立白鳥中学校では、数学の教科部会が実施されました。そこで感じた郡上北高等学校でも大切にしたい視点を書き出します。

- (1)「習熟度別授業であっても、ゴール（到達地点）は同じ、ただゴールまでどのように持っていくのか（指導方法）が異なるだけ」

例えば・・・ドンドンコース 30名を1名の先生 板書を中心に

コツコツコース 8名を2名+1名（支援する先生） 授業プリントを中心に

指導案の内容や、目標、取り組む問題も基本的に同じです。ある一定の水準に持っていくために、指導方法を変え、生徒一人ひとりに応じた指導をしています。生徒も問題を解くことができます。生徒の成長を軸にしたカリキュラムマネジメントが実施され、その目標達成のために授業改善をしているのだと思います。このように、中学時代に手厚く指導されて力をつけている生徒への指導をする際には、高等学校側も授業改善をしていく必要が感じられます。指導体制、指導方法・・・限られた人数、時間数ですが、郡上北高校が次なるステップに進む際に、教科で検討してみてください。

- (2)学びに向かう姿勢を育てる

中学校では「生徒が学びに向かう姿勢」を大切にしています。今回の授業でも、そのための工夫が見られました、例えば、練習問題を解くたびに名前を書いたプレートをゴールに向けて移動させる取り組みをしていました。生徒の成果を可視化することで、客観的に自分の到達度が見られることになります。ゴールした生徒は達成感が得られますし、遅れが出ている生徒には自分自身で努力が必要だと認識させることができると思いました。高等学校においても、何ができているのか、何ができていないのか、ということが自分自身で認識できる自己評価シートがあると良いと思いました。

高等学校において、「学びに向かう姿勢」は、進路目標を持つことでも作られていくと思います。しかし、その前提に、「生徒の学習習慣の定着」が必要ではないでしょうか。本校には、生徒の学習習慣を定着させている先生がいらっしゃいます。私は、生徒が熱心に質問にくるので、いつも尊敬していましたが、そこにはテクニックもありました。それは、「生徒に宿題を出し、次に授業にくじ引きで解答者を決め、他の生徒に分かるように説明をさせる」というものです。生徒は自分が当たった時に、説明ができないと困るために、先生に質問に来ているということです。先生が勉強をしなくてはいけない環境をつくり、生徒はその環境の中で学習習慣を身に付けています。学びに向かう姿勢・学習する習慣づけというのは、毎日の指導が必要です。例えば、自学自習ノートが作業になっていたら意味がありません（ぜひ副担任の先生もチェックに協力してください、担任より厳しくチェックして手書きでコメントしてください、教科で宿題を出してください）。教科が、担任・副担任が協力して生徒に学習習慣を定着させることで、進路目標が決定した時の「学びに向かう姿勢」につながると思います。